

◆ “防災まちづくり計画” ができました！

朱二学区自主防災会では、学区全体に、幅の狭い道や袋路（行き止まりの路地）がみられるほか、古い木造住宅が多く、地震などの災害時には、建物の倒壊や火災の発生が危惧されることを踏まえ、災害時に命を守り、安全に避難ができる、誰もが安心して安全に暮らし続けるまちをつくるため、平成26年度から3か年をかけて、防災まちづくりの取組を進め、その成果として、「朱二学区 防災まちづくり計画」を作成しました。

みなさんにも参加いただいた「まちあるき」や「防災まちづくりワークショップ」の意見等を踏まえながら、これからの防災まちづくりの考え方や取り組みの方向性を示しています。

今後、この計画をもとに、みなさんと一緒に防災まちづくりを進めていく予定です。

「朱二学区 防災まちづくり計画」は、各町の自主防災部長さん、副部長さんにお配りしています。また、朱雀第二自治会館で閲覧することも可能です。



◆朱二学区自主防災会が防災まちづくり活動団体に認定！

朱二学区自主防災会のこれまでの取組の成果及び今後の取組の展開を踏まえ、京都市から「防災まちづくり活動団体」に認定され、さる5月9日に京都市役所で認定式が執り行われました。

この認定式では、防災まちづくり活動団体として認定されると同時に、「朱二学区防災まちづくり計画」も路地・まち防災まちづくり計画に認定されました。

今後も、引き続き、京都市の支援を受けながら、防災まちづくりを進めていくこととしています。



認定式の様子



北川会長、大賀副会長、東副会長が参加しました。

◆これまでの防災まちづくりの取組

「朱二学区 防災まちづくり計画」の作成に当たっては、地域の課題を共有し、解決のための方法等について意見交換を実施するため、“防災まちあるき”や“防災まちづくりワークショップ”を開催しました。ご参加・ご協力いただきありがとうございました。

また、この計画づくりと併行して、できることから着実に取り組み、“防災ひろば”や“袋路の避難扉の設置”などが実現しました。

取組 防災まちあるきの実施

平成25年12月7日と平成26年1月18日に、地域の皆さんも参加して“防災まちあるき”を実施しました。

路地の幅員や袋路の状況、避難経路の有無や沿道建物の安全性など、防災まちづくりにおける課題やアイデアについて、話し合いながら、地域を見て回りました。



取組 防災まちづくりワークショップの実施

平成26年2月21日に、第1回防災まちづくりワークショップを開催しました。防災部長など52名の方が参加し、グループにわかれ「各町内や学区全体の防災上の課題」や「課題解決に向けたアイデアや取組」について、意見交換を行いました。

また、平成27年2月20日に第2回を開催し、グループにわかれ「防災まちづくりの方針や取組」や「防災まちづくりマップ（案）」について意見交換を行いました。

さらに、平成27年12月1日に第3回、平成28年1月26日に第4回を開催し、「防災まちづくり計画」の内容や「これからの具体的な取組み」について意見交換を行いました。



取組 自主防災役員会での防災まちづくりの企画の検討

平成25年度から平成27年度まで、計13回の自主防災役員会を開催しました。まちあるきやワークショップ、防災まちづくりアンケートの企画実施などを行い、防災まちづくり計画づくりの中心的役割を果たしてきました。



◆防災まちづくり計画の概要

■ 防災まちづくり計画の構成

1. はじめに

この計画は、細街路や古い建物の多い朱二学区における防災の課題を踏まえ、災害が発生する前に、被害を軽減するための予防的な取組をまとめたものです。

2. 防災まちづくりの課題

“防災まちあるき”や“ワークショップ”などから、細街路と避難経路、路地の日常管理、建物等の安全確保、防災設備・情報手段、取組体制・進め方などの課題を導き出しました。

3. 防災まちづくりの目標と考え方

学区やブロック、町単位などの地域が一丸となって取組むための目標を『地域の子カラで安心なまちを創る』と定め、そのもとに5つの防災まちづくりの方針を設定しました。

4. 具体的な取組

「コミュニティ」、「道」、「建物」、「まちの管理」、「情報等」に関する5つの方針に沿って、学区全体に共通する17の具体的な取組を設定しました。

5. 班ごとの個別の対策

同じ学区の中でも、それぞれの地域の実情に応じた取組が必要です。そのため1班から6班の班ごとに、マップにより防災上の課題とその対策について整理しました。

6. 取組の進め方

防災まちづくりは息の長い取り組みです。今後継続的に防災まちづくりを進めるための年間スケジュールや、学区全体、班、町内といった単位での取り組み方をまとめました。

■ 防災まちづくりの目標

『地域の子カラで安心なまちを創る』

地域住民一人ひとりの防災意識を高め、学区全体で防災まちづくりの目標、方針を共有しながら、取組みに応じて、学区やブロック、町単位などの地域が一丸となって、災害に強く、安心・安全に暮らすことのできるまちを創ります。

■ 防災まちづくりの方針

【コミュニティ】“お互いに支え合うことのできるコミュニティをつくる”

- ・ 災害時に互いに助け合うことのできるコミュニティの形成に向けて、地域住民の自治会への参加を促します。
- ・ 自主防災会を中心とした防災まちづくりの体制や活動の維持・継承を図ります。
- ・ 地域のみなさんの、防災まちづくり活動への積極的な参加を促します。

【道】 “災害に強く、安全に避難することができる地域をつくる”

- ・ 地域の集合場所から避難所までの主要な避難経路については、幅員の確保などの安全性確保を進めます。
- ・ 身近な道については、袋路や細街路における避難の安全性確保を進めます。

【建物】 “災害時に命を守ることができる地域をつくる”

- ・ 大地震でも命を守るため、住宅の耐震性の向上を図ります。
- ・ 細街路における建物の更新がしやすいよう地域のルールづくりを進めます。

【まちの管理】 “安心して暮らすことのできる地域をつくる”

- ・ 避難路となる道や、災害時に役立つひろばなどの日頃からの適正な管理を進めます。
- ・ 防災や防犯のため、空き家の適正な管理を進めます。

【情報等】 “災害時に有用な情報を共有する”

- ・ 災害時にあわてず避難ができるよう、未然に防災まちづくりの情報共有を行います。
- ・ 災害時にあわてず行動ができるよう、日頃から避難における障害などについて目を配りましょう。

◆既に着々と実現！ 防災ひろば・避難扉の整備

実現したこと① 防災ひろば（まちなか commons）の整備

所有者や町内会のご協力で、朱二学区の東中町に、市内第1号の“防災ひろば”が完成しました。

住宅が立ち並ぶ狭い路地に面した戦前からあった住宅を取り壊し、身近な防災広場として整備しました。近隣の方々の憩いの場としてベンチのほか、町内の防災器具を収納する防災器具庫も設置しています。



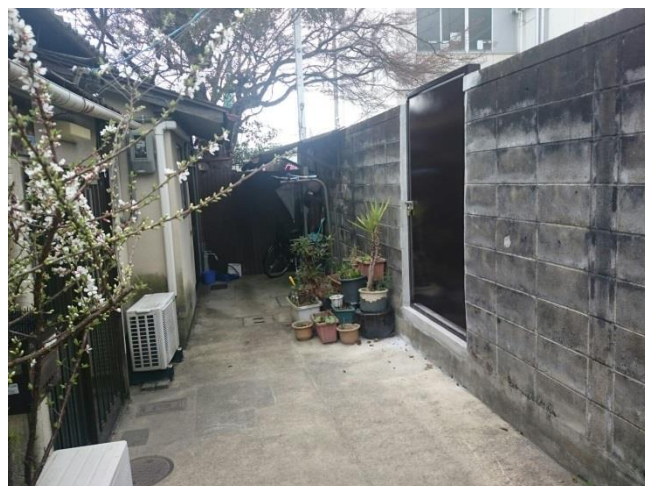
2か所

実現したこと② 緊急避難扉の整備

「愛の家グループホーム京都円町」と「京都市立朱雀第二小学校」にご協力いただき、袋路にお住まいの方々が災害時に避難することができる「避難扉」を整備しました。



愛の家グループホーム京都円町へ抜ける緊急避難扉



京都市立朱雀第二小学校へ抜ける緊急避難扉

◆計画をもとに継続して防災まちづくりに取り組みます！

防災まちづくりは息の長い取組ですので、「朱二学区防災まちづくり計画」では、学区として進める共同プロジェクトを8つ定め、平成28年度以降、防災上の課題の解決に継続的に取り組んでいきます。

今年度は、集合場所の銘板設置プロジェクトとして、各町内会の「地域の集合場所」に銘板を設置することにより、地域の集合場所の周知、災害時の活動の意義等の周知、住民の防災意識の向上を目指します。地域の皆様方のご協力をお願いします。

地域の集合場所とは…災害時に町内会住民が集まり、安否確認や救助活動などを行う場所で、町内会ごとに定めているものです。